

令和会だより

令和会は、令和初の県議選で当選した6人の一期生
自民党籍県議会議員の会で、各エリアから選出され
た議員の方達と情報を共有し、新しい熊本を創って
行きたいという思いで発足しました。

合志市

令和会『意見交換会』開催

合志市 池永 幸生 県議
(令和会代表)

令和会は一月二十一日、
合志市市役所を訪れ意見交
換会を行った。

はじめに市側から現在市
が取り組んでいる主要事業、
そして合志市の振興施策に
ついてプロジェクトを
使って詳細な説明がなされ
た。主要事業では御代志地
区土地区画整理事業また、
辻久保地区の開発について
説明があり、全市の90%余
りが調整区域の合志市では、



合志市との会議風景

開発事業は市作りの根幹で
あり、期待するものである。
旧西合志庁舎も全国で例の
ない活用を考えられ、旧庁
舎に市の商工会、信用組合、
また民間の企業が進出する
等、活気あふれる場となっ
ている。大学などと連携協
定を結び、事業展開を図ら
れていた。クマモト未来型
農業コンソーシアム創出事
業を拠点に農産物の振興技
術、産業の創出集積を推進
されていた。

合志市は創業支援にも力
を注がれ、商工会と共に支
援チームを作り、相談対応
も百八十一回と前年度に比
べ大きく伸ばされていた。
8月には初の民間事業者に
起業家セミナーが開催され
ていて、創業融資制度も用
いて実績も作られている。
九州経済産業局と連携し、
様々な制度に取り組み活用
されることは将来に向け市



作りに大きく寄与するもの
と思われる。市の課題とし
ては、国道や県道の渋滞が
ひどく、この事が熊本経済
の発展を遮る兆候であった。
合志市は人口増という県下
でも数少ない地域であり、
将来は8万人にもなるよう
なエリアだが、それゆえの
財源の確保、経済面の県の
動きに注視されていた。

熊本の企業の発展、事業
の拡張、また雇用問題にも
交通渋滞解消が欠かせず、
この取組みにも令和会とし
ても注視し取組んでいくべ
きと思われた。限られた時
間ではあったが、中身の濃
い有意義な会になり御出席
頂いた方々に感謝したい。

荒尾市

荒尾市の主要事業聞く 自民県議一期生 市長らと意見交換

荒尾市 島田 稔 県議

自民党の熊本県議一期生
でつくる令和会が十九日、
荒尾市役所を訪問。市が取
り組む主要事業について説
明を受けた。競馬場跡地の
南新地土地区画整理事業や
スマートシティー構想につ
いて聞き、浅田敏彦市長ら
執行部と意見交換した。

同会は2019年の統一
地方選挙で初当選した熊本
県議会議員6人で構成され、
今回は荒尾市の主要事業に
ついて聞き、県が協力でき
る事はないかと説明会を開
いた。初めに浅田市長が市
の現状などを話した後、担
当者が南新地土地区画整理
事業と南新地ウェルネス基
本構想、スマートシティー
構想について説明。意見交
換では議員から様々な質問

が出され、「土地区画整理
事業では将来的にどれくら
いの人口交流が生まれるの
か」という質問には浅田市
長が「目標は決めてないが
人口交流はかなりの増加に
つなげたい。雇用も生み経
済を活性化させ最終的には
税収の増加につなげたい」と
回答。活発に意見を出し
合っていた。令和会はその
後、自民党荒尾市議団や荒
尾商工会議所役員とも意見
交換を実施。同会に所属す
る荒尾市区選出の島田稔議
員は「市の事業が順調に進
んでいることが分かった。
県の支援が必要であれば、
会のみならず協力していっ
かり取り組んでいきたい」と
話していた。



葦北郡

葦北管内事業説明会

葦北郡 荒川 知章 県議

(1) 葦北地域振興局管内概要 について

水俣・葦北地域は、熊本
県の南部に位置し、不知火
海の海岸線に沿い北から葦
北町、津奈木町、水俣市の1
市2町で構成される地域で
ある。面積は約431.3
km²である。人口は、約4万4
千人である。

(2) 水俣・葦北地域振興計画 について

我が国が近代国家として
発展を遂げる過程にあつて、
高度成長期に入るとの時を
同じくして発生した水俣病
は、地域の住民はもとより、
世界にも大きな衝撃を与え
た。

当地域に甚大な健康被害
と自然環境の汚染をもたら
し、社会・経済基盤を大き
く脆弱化させ、全国的な少
子高齢化や都市への人口流
出なども相まって、当地域の
活力を著しく疲弊させた。
このため、当地域の住民の
方々が安心して生活できる
条件整備を図る必要がある
ことから、県は特別立法の
制定を国に要請したが、昭
和53年6月20日、国は当地
域の振興について「熊本県の
具体的提案を待つて対処す
る」との閣議了解を行った。
県も、当地域の振興を図
るため、国の支援のもと、昭
和54年度(1979年度)か
ら六次にわたり「水俣・葦
北地域振興計画」を策定し、
総合的に施策を展開して当



地域の再生と振興に地元市
町とともに取り組んできた。

(3) 水俣・葦北地域における 取組について

- 南九州西回り自動車道の整備
 - 水産物産直売所「えび庵」整備
 - シーサイドロードの概成
 - 葦北総合コミュニティセンター整備
 - 水俣・葦北観光応援社の設立
 - ITサテライトオフィスの誘致促進
 - 観光うたせ船の定時運航及び旅行商品化
 - つなぎオイスターバルによる津奈木産マガキ等のブランディング
- (4) 令和2年7月豪雨における被災状況について
- 葦北地域振興局、職員住宅、管内小中学校及び県立学校の被災概要
 - 管内における主な公共土木施設被災概要
 - 管内における主な農地、農業用施設被災概要



玉名市
坂梨 剛昭 県議



天草郡市
西村 尚武 県議



熊本1区
南部 隼平 県議

自由民主党 熊本県議会 一期生 「令和会」



葦北郡
荒川 知章 県議



荒尾市
島田 稔 県議



合志市
池永 幸生 県議
(令和会代表)

熊本1区

令和会県央広域本部勉強会

熊本1区 南部 隼平 県議

目的

自民党県議会一期生で構成された「令和会」で県内各議員の選挙区の課題や政策を学ぶことで、県政の発展に寄与することを目的としている。今回は熊本市を中心とした土木事業や河川の治水対策、農業政策等について執行部からの説明と意見交換会を行った。

農林部の事業説明

熊本市は、多様な作物と豊富な労働資源、多彩な流通網を生かした都市型農業を推進している。農業産出額は473.6億円と全国8位、野菜や果樹が主体の園芸産地である。また、熊本市の特徴として新規就農者が県内で最多であり、令和元年度は36名の新規就農者が誕生している。

令和2年の重点取り組みとして、都市農業の更なる発展と、稼げる農業の実現大きな軸として基盤整備やwithコロナ消費に向けた農業支援、人材育成、スマート農業の推進等を掲げている。



執行部からの説明の様子



白川中流域弓削橋周辺

土木部の事業説明

熊本市内の管轄土木事業に対しての予算は35億円。そのうち40%が河川関係、33%が港湾関係、都市計画関係が16%を占めている。河川事業の大きなものとして、白川大規模特定河川事業がある。平成24年に起こった大規模な水害を契機として河川整備計画が見直された。県央広域本部の管轄である白川中流域(小傾橋〜みらい大橋)では当初の計画では1,500m/sの河道整備の対応であったのが2,000m/sまで見直しが行われた。この区間では令和2年度に以前から河道のポトルネットとなっていた弓削橋の改修が計画されている。

港湾事業については熊本

港を中心とした護岸かさ上げによる埋立処理場の容量確保や浚渫による水深確保を目的とした事業が行われている。都市計画関係では運動公園内の高木の伐採や施設の長寿命化を目的とした遊具施設等の整備、野球場照明施設のLED化等を行っている。

天草郡市

意見交換会趣旨説明

天草郡市 西村 尚武 県議

熊本県自民党県議会一期生

が集まる政策集団、令和会、西村尚武県議(天草郡市)池永幸生県議(合志市)島田稔県議(荒尾市)荒川智章県議(葦北郡)坂梨剛昭県議(玉名市)。県議出身地を中心に地方の実情、課題を把握し、緊急性のあるもの、将来的に検討すべきものを精査し、これらを県行政に活かしていくには県議としてどう対応すべきかを勉強するため地方の生の声を聴く、意見交換会として」と主催地の西村尚武県議が挨拶で、本会を開催する意義や目的、その趣旨について説明があった。次に各県議から自己紹介を兼ねて挨拶があった。



この日出席は県央広域本部から古森美津代本部長他4名、天草市部長級2名、民間団体からはJAあまぐさ、JA本渡五和、天草市商工会、本渡商工会議所、牛深商



工会議所、天草漁協、県海水産養殖漁協等8団体が出席した。それぞれの団体が当面する課題や要望を発表した。発表に対する質問もあった。団体が抱える諸課題について県議会としてどう取り組むか、まず意見を聞くという姿勢はこれまでに無かったことで、令和会の活動には一定の評価に値すると言えるのではないかと、今後の活動に期待するとの評価の声があった。

発表には出なかったが、

県下共通する地方の最大の課題とも言える人口減少による担い手不足、家後継ぎがないという難題がある。農業経営も企業の継続もできない、農地荒廃、過疎化の深化、この状況に打つ手はないのか、県議会議員最大の課題と言えるのではないかと。

玉名市

玉名市主要事業説明会

玉名市 坂梨 剛昭 県議

第一回令和会(一期生)研修会を玉名市役所で行いました。玉名市長の挨拶の後、執行部より「新玉名駅周辺整備方針について」地方独立行政法人くまもと県北病院機構より「くまもと県北病院について」説明を受けました。

①新玉名駅周辺整備方針について

新玉名駅は2011年、九州新幹線鹿児島ルート博多駅〜新八代駅間の開業に伴い、九州旅客鉄道(JR九州)の駅として開業。

駅周辺は田園が広がり、新玉名駅周辺整備方針を掲げ社会的情勢を踏まえ、市において優先的に整備すべき範囲設定と、整備手法の揭示がされています。

優先的に整備すべき範囲は6.67ha、計画としては23.94ha、今後、開発行為と土地地区画整理事業と課題と手法を考察していくとのこと、人口減少問題、また新たなまちづくり



の為に早期の解決を目指す、計画に載せていくと話を伺えました。

②くまもと県北病院について

今年三月、新玉名駅近くに公立玉名中央病院と玉名地域保健医療センターが合併し「くまもと県北病院」が開院いたします。

診療科22、病床数402床、県下においても有数の規模を誇る地域中核病院となり、高度かつ地域に密着した医療を目指し、玉名、玉東地区を初め、県北の皆様の健康を守ることを最も重要な使命とされております。

以上、説明後、市との意見交換を行い終了いたしました。今後、令和会としても各地域事業を踏まえ県との連携に向け、はしご役として活動をして参ります。

